

*令和2年7月豪雨で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

*本メールは、一般社団法人日本LCA推進機構のメール会員登録をいただいている方へお送りしています。この場をお借りしまして、ご登録いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

////// I N D E X //////////////////////////////////////

- ・メルマガニュース……………
 - LCA 日本フォーラム総会できたこと and 総会セミナーの報告
 - LCA のオンライン LCA 初級研修を実施しました。
- ・特集……………
 - 新型コロナウイルス後も元に戻らないこと
 - たくさんの方からご意見を頂きました。
- ・編集後記…………… 誕生日ネタ！

■■ ニュース ■■

○LCA 日本フォーラム総会できたこと and 総会セミナーの報告

・6月30日(火)にLCA 日本フォーラムの総会がありました。山本良一・LCA 日本フォーラム会長の強いご意志があり、今年度から「自治体の気候行動計画立案支援プロジェクト」が始まることになりました。日本でも多くの地方自治体が気候非常事態宣言 (Climate Emergency Declaration =CED) を出すようになりました。これらの自治体のカーボンニュートラル (あるいは二酸化炭素排出実質ゼロ) を目指した気候行動計画の立案・実施を支援するプロジェクトです。LCA 日本フォーラムのなかに新たなワーキンググループを設置し、自治体職員の皆様に LCA の基本的知識の研修、海外における気候行動計画についての情報を提供するセミナー等を開催します。LCAF 理事長・稲葉は LCA 日本フォーラム副会長としてこのプロジェクトを推進します。皆様のご協力をお願いします。

・総会の日午後に、総会セミナー「ネガティブエミッション技術 国内シンポジウム」が開催されました。地球環境産業技術研究機構副理事長・研究所長・山地憲治氏のご講演に続き、NEDO・経済産業省・国土交通省・農林水産省・環境省のご担当様に NETs 関連の政策についてご講演をいただき、その後、LCA 日本フォーラムの「NETs プロジェクト」の成果である「NETs 技術の LCA ガイドライン」の概要について報告しました。LCA の国際標準規格は、「目的に合致した方法で LCA を実施すること」としか書いてありませんから、NETs 技術を評価する目的は何かを皆で議論し、それに合致した LCA の実施方法をガイドラインとして定めることが必要になります。このガイドラインのパブリックコメントがこれから始まります。皆さんもご意見を投稿してください。

○LCA のオンライン LCA 初級研修を実施しました。

・オンライン研修「速攻 : 初歩の LCA」を実施しました。1回1時間で全5回の速攻コースです。「演習で学ぶ LCA」を教科書として研修用のパワーポイントを作成しました。教科書に含まれていない図表も付け加えました。

・好評につき、オンライン研修「速攻 : 初歩の LCA」を7月23日(木・祝)と24日(金・祝)に再度実施します。また、「中級 : LCA の実務」と題した中級編を8月1日(土)と2日(日)に全4回で実施します。皆様のご参加をお待ちします。 <<https://lcaf.or.jp/lcaf-workshop.html>>

■■ 特集 ■■

メール会員の皆様に「新型コロナウイルス後も元に戻らないこと」を聞きました。7月14日(火)～7月19日(日)に届いたものです。到着順に掲載します。

・密閉・密集・密接の3密に対する抵抗感は、治療薬の開発が進み、解決策が示されたとしても、払拭されず、しばらくは残るのではないのでしょうか。娯楽関係のイベントを中心に運営基準として、盛り込まれるのではないかと思います。テレワークやオンライン会議は一部では定着すると予想しますが、対面式や集合研修を希望する声も聞こえてきますので、徐々に元に戻ると捉えております。(30代・男性) --

(稲葉)「しばらく」ではなく、今後ずっと元に戻らないことを教えてほしいのですが。。結局は元に戻ると言うことでしょうか。

・少なくともオフィスでの働き方は、完全にコロナ以前までには戻らないのではないかと(戻ったら進歩がないです)と思います。例えば；○テレワークやオンライン会議は定着(ホワイトカラーは、週の出勤2~3日が常態勤務) ○オフィスはフリー、シェア化+サテライトで分散が常態化 ○ホワイトカラーの転勤、単身赴任といった形態も激減働き方がテレワーク中心になり、時間の使い方、お金の使い方、体の動かし方が、大きく変わりました。(50代・男性)

(稲葉)そうですね。私の関心はその先なんです。東京のオフィスは必要なくなるので、最近再開されている〇〇ヒルズは空室が多くなるのでしょうか？ それとも他の需要が出てくるのでしょうか？

・戻らないこと：仕事帰りの居酒屋での部下の愚痴を聞くこと、それから部下への小言を言うオジサンの日常。帰宅前の立ち飲み屋で本日の仕事の憂さを晴らす日常。商店街の小さい本屋での出物を探しながら、店主と書評をじっくりと伺うこと。昭和スタイルの“純喫茶”でわが街のバリスタとお話ししながら、美味しいエスプレッソをいただくこと。リモート会議の活用による役員会、取締役のための幹部社員の東京本社や大阪本社への出張がなくなる。全社・グループの責任者が集合する全体会議が無くなって、リモート会議で個別、具体的な議題での会議が主流となる。

・絶対元に戻ってほしいこと：気の合う仲間との新年会、暑気払い、忘年会などの懇親会とその後のクラブ活動(?)・・・カラオケはなくなるかな？ 釣り仲間との楽しい釣行。LCAの入門者講習とエキスパート検定。(60代・男性)

(稲葉)コロナに関係がなく「消えて行く昭和」のような気がしますが。。講習会はオンラインでできますが、検定試験のオンライン実施ができますでしょうか？

・この時期気になるのは、何と言っても夏の休暇の過ごし方ですね。例年は家族旅行に加えてお盆の時期に妻の実家へ帰省をするのですが、今年は前者は行くとしても都内かせいぜい首都圏の範囲内に押さえざるを得ず、また後者は既に諦めています。(40代・男性)

(稲葉)「今年は」ですか？ 来年は元にもどるのでしょうか？ 旅行(移動)に関しては、絶対に元に戻らないことってあるのでしょうか？

・テレワークやオンライン会議が有る程度の割合を占める。ただし、小さな子供がいる家など仕事環境に恵まれない人のために、公共・民間の作業スペースの提供が増加。テレワークで完結出来る会社と出来ない会社に分かれるが、大半の会社は出勤業務と在宅業務の組み合わせ。

・在宅が多くなるので、自宅周辺の散策やランニングする人が増加。自宅飲みが増えるので、居酒屋が減る。

・旅行は、Go to キャンペーンはさほど効果なく、減少のままと思う。特に海外旅行は、相手国の対応もあり、数年間は低調のまま

・大学等のオンライン授業が有る程度の割合をしめる。ただし、卒論、修士論文、博士論文のベースは実験なので、研究室が中心。オンライン授業で完結出来る教育機関と出来ない教育機関に分かれるが、大半の教育機関は、教育機関での教育とオンライン教育の組み合わせ。

・311の後、結婚願望の人が増加したそうだが、今回は減少するのでは？(70代・男性)

--
(稲葉)結婚願望の人が減る？ 新しい視点ですね。結婚願望が増えた東日本大震災との違いはどこ

にあるんでしょうか？

・仕事面では、大手企業はテレワークやアウトソーシングが進み、正社員採用が減少するのではないのでしょうか。中小企業は、手を動かす作業が多かったり、システム構築費用の捻出も難しく、あまり変わらないのではないかと思います。

・教育については、願望ですが、学校に対する高尚な考えが無くなり、生活指導や部活動や行事などで教員が疲弊することのない、シンプルに学問を学べる場所になってほしいと願っています。

(30代・女性)

(稲葉)正社員が減る？ なんとなくですが、ほんとうに必要な業務と不要不急でアウトソーシングが可能な業務が選別されたように私も思います。教育についてのご意見をいくつか頂いています。9月入学が話題になった時期もありました。小学校・中学校・高校・大学・大学院の違い、また大学では理系・文系の違いを考慮したきめ細かな議論が必要なのではないでしょうか。

・○外出時はマスクをするのがスタンダードとなる。マスクをしていないと常識人でないように見られる(新たな社会規範の形成)。一方で、顔認証もマスク対応が求められ、接触機会削減で指紋認証が主流でなくなり、虹彩認証などの技術が進化する。防犯カメラも進歩するか。

(40代 男性)

(稲葉)マスクの着用が必須となると、確かにセキュリティ対策も変わると思います。

・ラーメン屋のカウンターで最近、「味集中カウンター」といって、席と席の間に仕切板があるところをみかけます。(最近ではコロナの感染予防の観点からアクリル板を置くお店も増えています)。居酒屋のチェーン店でもこのような席が登場し、例えば、数名のグループで予約はしたものの、参加するメンバー一人ひとり是最寄りのお店に行ってその席に座り、同じ居酒屋チェーン店でオンライン飲み会ができるようなスタイルが登場するかなと思いました。注文や精算もiPadで受付すれば、割り勘やコース料理も選択できるかもしれませんね(笑)。(50代・男性)

(稲葉)確かに飲み屋さんも、以前にはなかった経営方法が出て来そうに思います。

・ワクチンができれば海外旅行需要は戻るがビジネス出張は元に戻らない(オンライン会議普及のため)。その結果、飛行機のビジネスクラスは「リッチ旅行クラス」に変わり、利用者は裕福なリタイア組ばかりになる。

・印刷紙の需要。紙に印刷する文化が消え、全てバーチャル書類になるため。紙書類は迷惑がられてほぼ絶滅する。新聞、雑誌も紙版はかなり危ない。紙で生き残るのは書籍位？

・巣籠に伴い減った小遣い。(50代・男性)

(稲葉)裕福なリタイア組ももうすぐいなくなるのではないかと思います。。。航空業界、製紙業界が衰退して行き、IT・物流だけが残るのでしょうか？ 日本全体の産業構造はどのように変わるのでしょうか？ (小遣いが減らないように家庭内闘争を勝ち抜きましょう。)

・学生たちと話ししたりしていると、「元に戻る」ということがもうない気がします。たとえば、以前と同じことをしているとしても、全く違う社会的な文脈の中でやっていることで、早く新しい秩序などを作らないと混乱するのかなという感じです。難しいことを書きたいのではなく、大学も、これから大学教育をどうするのかをこれからの生徒や社会をみて早く設計した方が良いというのが正直な回答です。ただし、年齢的には、前のままに戻るは助かりますし、そうしていたら、定年までの人生プランは作りやすいですが。(50代 大学教員)

(稲葉)大学で本質的に変わる(戻らない部分)はどういうことなのでしょう？ 文系は通信教育化？

・通勤電車について：経済的にも、混雑度、さらにインフラとしての必要度によって、適正化（場合によっては減便を含め）されると思います。電車等に限れば、在宅勤務が多くなれば、通勤定期等の制度は変わるかもしれません。

(稲葉)通勤定期がなくなる？ 新しい視点とと思いました。

・旅行についても、新幹線に乗っても普段の半分以下ですし、そうなる料金と現行通りというわけにいかず、値上げされると、旅行客は減らざるを得ないと思われれます。また、4Kや8Kで肉眼よりきれいに見られるようになり、取り寄せで各地の名産も入手できますので、旅行好きは何としても行くとは思いますが、一般の人はわざわざ今後も旅行に行くのか不明です。(60代男性)

(稲葉)私は旅行好きのようです。値上げになると困ります。

○(稲葉)LCAFのオンライン研修を実施しています。研修は今まで対面で行うことが常でしたので、地方へ出向いた研修というのもありました。オンラインでできるようになると、地方での開催がなくなります。逆に考えると、地方の都市を本拠としてオンラインで研修を実施することができます。地方への単身赴任をやめる企業もあるようですが、地方からテレワークでの仕事も可能になっています。コロナ禍は、東京への人口集中を抑制する方向に働くのでしょうか？ それともますます東京の人口集中が進むのでしょうか？

○(稲葉)初級研修の最後は「持続可能な消費」の紹介です。2001年に欧州の各国で始まり、今ではSGDsの12番になっています。当時は「生産者が良いものを作れば、消費者が使う」という考え方が主流でしたので、「生産者が良いものを作っても消費者の使い方が悪いとなにもならない」とか「消費者の行動で生産を変える」という考えは非常に新しいものに思えました。「リバウンドを考えながらライフスタイル全体で消費行動を変革する」ために、環境教育の実施方法などを議論しました。ライフスタイルを変えるのはほんとうに難しく、就職や結婚などの「ライフイベント」が変革の鍵（トリガー）になるというのが結論の一つだったのですが、、、COVID19でこんなに簡単にライフスタイルが変わるとは思いませんでした。COVID19を「環境を考えるライフスタイルを作るトリガーにする」ための方策を考える必要があります。オンライン研修では参加者の名刺交換（研修後の意見交換）ができません。小さいことですが、対面研修と同じ効果があるようにする方法を考えることから始めたいと思います。

(研修の教材作りで忙しかったので、研修関連のまとめになりました。ご容赦ください。)

■■ 編集後記 ■■

○私事で申し訳ありません。今年も私の誕生日が近づいてきました。7月24日ですから、梅雨が明けて海水浴で賑わう年があったり、今年のようにまだ梅雨が明けずにいたりという時期です。プロ野球のオールスターゲームもこの頃でしたね。夏休みの初日の年もありました。今年も東京オリンピックの開催日ははずだったのですが。。様変わりですね。

○皆さんは、海外の人と呑むときの自己紹介はどのようなことを言いますか？ 私は若い頃は、誕生日ネタを二つ用意していました。(その1)7月には重要な日が3日あります。7月4日はアメリカの独立記念日、14日がフランスの革命記念日、24日が私の誕生日。(その2)私の誕生日は7/24(7days24hours)です。無休で働いています。

私の興味だけで記事を書いています。おもしろがってくれる人がいてくれるなら、とてもうれしいです。⇒感想をお送りください。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで (読んで) ください)

〒71-0014 東京都豊島区池袋 2-36-1

インフィニティ池袋 8F52

電子メール : contact@lcaf.or.jp

URL:<https://lcaf.or.jp/>